

東京・青山の高層ビルで強い揺れに出会い恐怖を感じました。緊急地震速報では、震源は三陸沖、マグニチュードは7.9、震度速報では、栗原市築館で震度7と報じられていました。マグニチュードはその後8.4から8.8、9.0と大きくなりました。

巨大地震での緊急地震速報の地震規模の過小評価の問題や、長周期地震動に対する高層ビルの強い揺れ、帰宅困難、湾岸のタンク火災など、当日、私が都心で経験したことは、いずれも、南海トラフ巨大地震で心配されていたことです。低地を襲った津波、被災地域の広大さ、周波数不統一による電力不足など、かねてより懸念していたことが全て起きてしまいました。思いもよらぬ原発災害により、国際社会からの我が国の科学技術や安全安心への信用は失墜したようです。

東日本大震災のような低頻度巨大地震災害では、余震や誘発地震が続発し、災害が長期化して風水害も組み合わさります。このような広域複合災害では、社会の対応力も不足します。3万にも達しようとする死者・行方不明者、津波や地盤沈下により失った広大な土地、大量の避難者など、災害発生後2カ月を経ても、復旧・復興モードに入れない地域も多いようです。救命・救急、医療、遺体処理、避難、瓦礫、物資、物流、仮設住宅、企業の生産活動の停滞、復旧・復興の困難さなど、何れも南海トラフ巨大地震で心配されていることです。

南海トラフ巨大地震では、東日本大震災の何倍もの被害が予想されています。この災害被害を劇的に減らすことが、日本への信用を再び取り戻す唯一の道です。千兆円近い負債を抱える中で、国や県には、堤防や防波堤を整備する力は十分にありません。少子高齢化の中、この社会を次世代に引き継ぐには、国の借金を減らして災害対策にお金を使い、国の有りようを見直す必要があります。安全な小高い土地に強い建物を作り、室内の安全対策を整えると共に、自らの命を守り他を助ける「心」が必要になります。個々人の生き方を含め、日本の有りようを考え直すきっかけにしたいと思います。